

魚津の教育

魚津市教育センターだより175号
令和6年12月発行
魚津市教育センター
〒937-0053 魚津市林林町1-21
TEL (0765) 23-9161

『楽しい授業』

魚津市教育委員会 参事 長崎 亨

右の問題は、今年度の全国学力・学習状況調査で小学6年生に出題されたものです。皆さんも考えてみてください。

さて、問題では、家から図書館までの速さが問われています。自転車はずっと同じ速さで進んでいるので、正答は分速200mとなり、比較的簡単な問題と思われます。

しかしながら、全国の平均正答率は54.4%と低く、また、2つの速さを足して分速400mと答えてしまった子供が24.3%もいたそうです。このような問題は教科書では扱っていないため、「ひっかけ問題」のように感じてしまいがちですが、私は、この出題に次のようなメッセージが込められていると思っています。

「公式を使って速さを求めるだけの計算練習に終始した授業になっていませんか。」

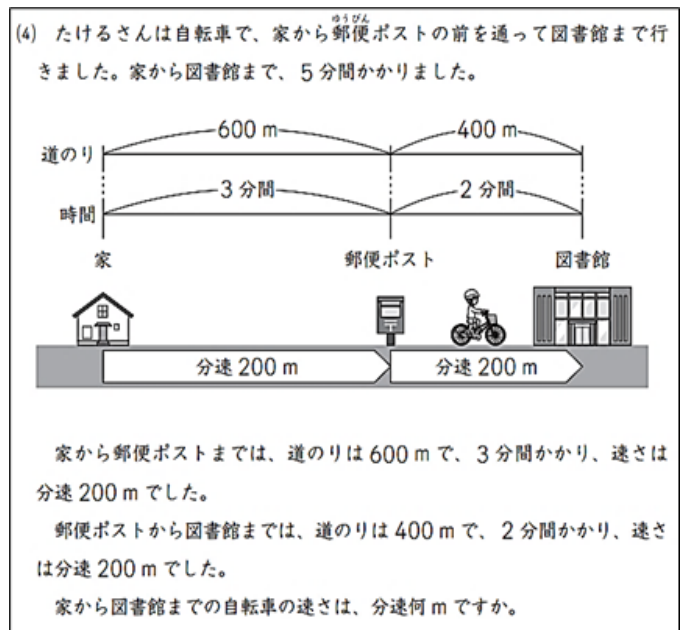
「授業で、子供たち自身が速さの意味を考え、理解するための活動が設定されていますか。」

「小学校算数を例に出題しましたが、他の校種・学年、他教科の授業はどうですか。」

つまり、先生方へ向けた授業改善のメッセージであると大きく捉えることができるのではないのでしょうか。子供たちの実態、学校や地域の実状、先生方の持ち味によって取り組み方はいろいろかと思いますが、次のような視点での授業改善が望まれます。

- ・子供自ら問題を見だし、解決する学習となっているか
- ・一人一人に合った学びと周りの仲間と関わりながら解決する学びが共存しているか
- ・学ぶねらいを確認する場面、自分の成長を振り返る場面等があり、子供自身が学ぶ意義を感じているか
- ・子供自らが学ぶために、自分の意思で一人一台端末を便利に利用しているか

学校で過ごす時間の中で一番長いのが授業です。「楽しい授業」づくりは、これまでも取り組んできたことではありますが、より一層楽しく、魅力的な授業になるよう工夫をしていきたいものです。子供たちが、「授業が待ち遠しい」「学校が楽しい」とわくわくしながら毎日を過ごすことができればいいなあと思っています。



令和6年度 全国学力・学習状況調査 小学校算数 大問4(4)

「目の前の子供たちと」 よつば小学校 ^{ふかみ} 深美 ^{ちはる} 千晴

私は昨年度まで、黒部市の小学校で4年間勤務していました。そこで出会った子供たちや先生方のおかげで、今の自分があります。初めての異動が決まったときは、緊張や不安もありましたが、これから出会う子供たちや先生方との縁を大切に、気持ちを引き締めて頑張ろうと決意しました。

魚津市に着任し、新しい環境に戸惑うことも多くありましたが、目の前の子供たちと全力で向き合うことに変わりはありません。私は今、1年生を担当しています。初任の頃にも1年生を担当していましたが、その頃はコロナ禍で、活動も大きく制限されていました。あの頃に「みんなでこんな活動ができたらいいな」と思っていた子供同士の関わり合いを、今年実現できていることが嬉しいです。クラスみんなでレクリエーションをしたり、友達と手を繋いで元気に音読したり、友達や学習に対して素直に子供らしく向き合う姿に、私も心がほっこりする毎日です。

また、周りは、子供たちの心に寄り添う素敵な先生方ばかりで、「私も次は、こんな言葉かけをしてみよう」などと、日々学ぶことが多いです。つい自分の心の余裕が無くなる時がありますが、心も表情も晴れやかに、先生方から吸収したことを実践しながら、子供たちのために努めています。

「魚津市の学校に赴任して…」 経田小学校 ^{あんどう} 安藤 ^{みさと} 美里

以前勤めていた小学校には、初任から9年間在籍していました。1年目の自分を、9年間かけて育てていただいたことに感謝しています。そして、そこで学んできたことを魚津市の子供たちに還元しようと、決意を新たに経田小学校に着任しました。

地元とは言え、他市への赴任は不安な気持ちが多くを占めていましたが、地元ならではの喜びがありました。それは、恩師との再会です。今、小学校時代の担任の先生と同じ職場で働いています。「元担任と教え子」として懐かしい話を楽しんだり、「教員の先輩と後輩」として授業づくりや子供への指導について語り合ったり、時には「子育ての先輩」として我が子の子育てについてアドバイスをいただいたり…今も昔も変わらずに温かく見守り、熱心に指導してくださる日々、嬉しさと、肩を並べて働く誇らしさを感じています。

私が初めて担任した子供たちは、今年20歳になります。その中には、教員の道を志している子もいるかもしれません。私が職場で「教え子との再会」をする日もそう遠くはないように感じます。その時には、今度は自分が「元担任として」「先輩教員として」胸を張った姿を見せられるよう、成長し続ける教師でありたいと思います。

「みんなが楽しい学級へ」 東部中学校 ^{すぎさわ} 杉沢 ^{まさき} 雅樹

今年度、私の母校である魚津市立東部中学校に赴任しました。地元であること、そして何よりも自分の後輩にあたる生徒たちを支えたいという想いを抱きながら、日々の教育活動に取り組んでいます。生徒たちの成長を後押しし、学校をよりよくしたいという強い気持ちは、他の場所では感じられなかった特別なものです。

昨年度までの3年間、私はタイの日本人学校で勤務していました。そこは自由な校風が特色でした。日本人学校の生徒と関わる中で痛感したのが、自由だからこそ大きく育まれる主体性と責任感です。同時に、自由があるからこそ指導が難しい面も感じました。自由=無法地帯ではないことをいかに生徒たちに理解してもらうかが課題であり、生徒たちと一緒に「自由とは何か」について考えながら指導していました。この経験を生かし、魚津市でも自由と責任を両立できる環境づくりを目指しています。

今後は、生徒たちに自己決定の場を最大限に設け、自分の意思や発言に責任をもつことの重要性を感じさせたいと考えています。学級活動や授業での言語活動を通じて、こうした力を育むことができるよう取り組んでいくつもりです。自由な中で自分の責任を自覚できる教育を進め、生徒たちが未来に向かって力強く歩んでいけるよう、全力でサポートしていきたいです。

「小学校教育課程研究集会 県東部 外国語活動・外国語科部会（二年度）研究会」を終えて 魚津市立星の杜小学校

本校は、県小学校教育研究会外国語活動・外国語科部会の研究指定を受け、「外国語による言語活動を通して、主体的・対話的にコミュニケーションを図ろうとする子供の育成」を研究主題として、外国語活動・外国語科の授業づくりや教師の支援の在り方等について、2年間研究に取り組んできました。

〈第3学年 「This is for you. ～THANK YOU カードを作ろう～」〉

本単元では、家族や友達、以前の担任へと相手意識をもってありがとうを伝えるカード作りに取り組みました。お店屋さんごっこの形態で、相手に喜んでもらいたいという思いをもって、欲しい形や色のパーツを集めました。



- ・「ありがとうの気持ちを伝える THANK YOU カードを作ろう」というゴールを第1時に設定することにより、渡す相手を喜ばせたいという相手意識、目的意識をもちながら、単元を通して意欲的に活動に取り組む姿が見られました。
- ・よりよいやり取りを目指し、自分の目当てを明確にしてから前半の Activity に取り組み、中間指導で子供たちが友達のよいところを発表して共有することで、後半の Activity に生かしていました。主体的に会話をよりよくしようとする姿がたくさん見られました。
- ・ALT や HRT が活動中に子供のよさを積極的に評価していました。子供たちと共有した姿の写真を撮ってキーワードを掲示しておくことで、子供たちがよりよい姿を具体的にイメージして活動に取り組むことができました。

〈第5学年 「What would you like?～サプライズ！OOさんにふさわしいランチメニューをつくって喜ばせよう！！」〉

本単元では、相手意識を大切に、「生きたコミュニケーションの実現」を目指して、丁寧なやり取りをするよう指導しました。相手を見て商品を渡している子供には、ミシュランの星シールを指導者が手渡し、価値付けていました。5つ星レストランを目指して、より丁寧なやり取りを心掛けたり、友達のよい姿を進んで見付けたりする姿が見られました。



- ・相手の好みに合わせたメニューをつくり、サプライズで相手に贈るという単元のゴールを設定したことで、子供は「相手が喜ぶメニューをつくるために」という目的意識をもち、買い物客と店員とに分かれて、主体的に言語活動に取り組むことができました。
- ・値段を伏せての商品提示や裏メニューの設定等の学習環境を工夫することで、子供は必要感をもって言語活動に取り組むことができました。また、中間指導において「How about ～ ?」「A or B」のような既習の表現の効果を共有し、その後に役割を変えずに言語活動を行ったことで、学んだ事柄を生かしてコミュニケーションを図ることができました。
- ・効果的な表現を用いたり、ジェスチャー等を取り入れたりしている子供を中間指導で取り上げ、その場でシールを渡して即時評価をすることで、子供は自身の成長に目を向けながら学習することができました。

2年間の外国語活動・外国語科の実践の取組を通して得た研究成果を今後の授業実践に生かすとともに、一人一台端末の効果的な活用等、残された課題の究明に努めていきます。

魚津市教員パワーアップ支援事業報告

『体験することでしか得られないもの』

よつば小学校 中 理沙

6月4日(火)～7日(金)にかけて、秋田県大館市の山瀬小学校へ研修に行ってきました。昨年度、研修に行かれた先生方の報告やよつば小学校に来られた松岡先生との懇談会等で、大館市の教育の魅力を感じていましたが、自分の実践に生かす余裕がない日々が続いていました。今回、研修に参加させていただくことができ、優れた実践を直接見たり実際に体験したりできたことが、自分にとって何よりの収穫となりました。

山瀬小学校では、教務主任であり大館市授業マイスターでもある畠山和子先生のもとで研修をさせていただきました。研修では、畠山先生が担当されている高学年の算数科(担任の先生とのT2)と上学年の理科を中心に参観させていただきました。授業を参観し何よりも衝撃を受けたのは、子供たち自身が自分たちで学びをつくり出していこうとする授業態度でした。教師の発問に対し自分なりに懸命に考え、真剣に授業に向かう子供たち。「一人では分からな



グループで対話しながら学びを深める児童

かったことも学級の友達と意見を出し合えば必ず課題解決できる」という思いから積極的に手を挙げて意見を交換する子供たち。そんな子供たちの姿からは、私が授業の本質であると考え「学ぶ楽しさ」を感じることができました。また、研修の一環として、6年理科「動物のからだのはたらき」の単元で授業実践をさせていただきました。山瀬小学校では、学習リーダーを中心とした話合いで課題づくりを行っています。この課題づくりを授業で実際に行ってみると、自分の言葉足らずを実感させられました。そんな中でも、子供たちは私が言ったことにしっかりと反応を示してくれ、私が伝えたいことを懸命に読み取ろうとしてくれました。この授業実践からは、授業中の発言全てを子供たちが自分事として捉え、反応し、受け取ろうとする力、つまり「聞く」力がとても重要であり、子供たちに身に付けさせたい力だと感じました。この学びは、実際に大館市を訪れて、授業実践をさせていただいたからこそ得られたものではないかと思えます。

研修を終えてよつば小学校に戻り、自分の学級の子供たちの様子を改めて観察すると、何となく反応することはできているものの、教師や友達の発言を自分事として捉えられていないように感じました。そこで、相手の話を聞くことで楽しめるアイスブレイクやペアやグループで話し合っ



朝礼にて全校で校長先生の話聞く姿

ような授業を仕組むようにしました。すると、少しずつ「友達の話を聞いたから分かった」「授業が楽しい」という子供たちが増えてきました。「聞く」ことは当たり前の力かもしれませんが、鍛えていくことでよりよく「聞く」子供たちに育てることができると感じました。

今回の研修では、「現地に赴き、同じ空間で見たり体験したりする」という、かけがえのない体験をさせていただくことができました。この体験が魚津市の子供たちのよりよい学びに繋がるように、これからも実践を続けていこうと思います。

『生徒主体の授業』

西部中学校 永森 勇希

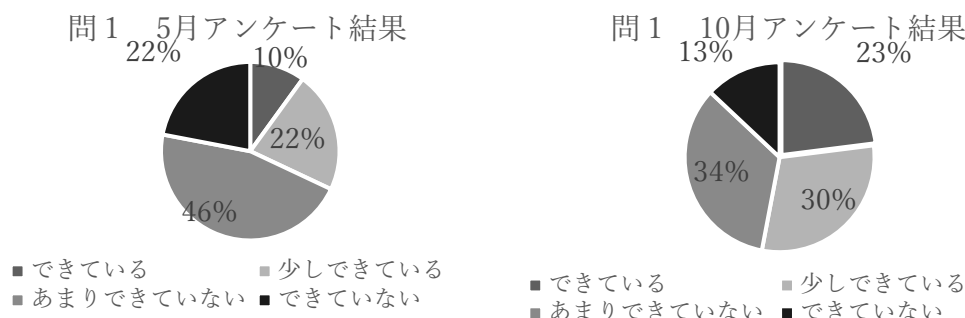
6月3日（月）～7日（金）の5日間、秋田県大館市立下川沿中学校へ研修に行ってきました。昨年度、大館市に研修に行かれた植木先生の授業見学、校内研修から自分自身を大きく成長させることができると思い、研修に参加させていただきました。

今回の研修では、実際に授業づくりや授業実践に参加させていただき、自分自身の授業を見つめ直すきっかけとなりました。

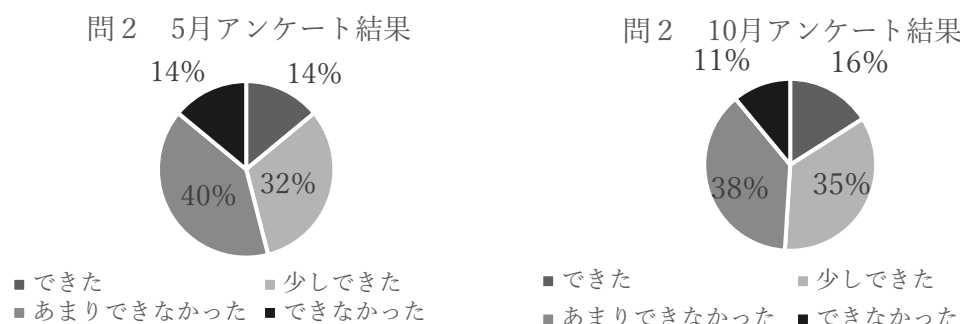
下川沿中学校では、社会科担当の佐藤先生のもとで研修をさせていただきました。社会科の授業だけでなく、その他の教科や学校行事も参観させていただき新たな気付きがある貴重な機会でした。初めて授業を参観した際に衝撃を受けたのが「S アップタイム」の時間です。S アップタイムとは課題解決に向け、話し合い検証を生徒主体で行う場面です。教師はファシリテーターを務め、生徒の考えや思いを発表するヨコの対話を意識した言語活動が行われていました。発表した意見に対して生徒たちは「いいね」「私も同じ」などの反応が自然と起こり、自分の意見を発表しやすい環境だと感じました。生徒中心に課題を設定し、話し合い活動を行うことで「主体的・対話的で深い学び」につながると気付かされました。

研修から帰り、①毎時間の課題設定、②話し合い活動の工夫に力を入れ、授業改善を行いました。西部中学校2学年143名の生徒へ5月と10月にアンケートを実施しました。

問1 授業の課題設定を自分自身・学級できているか。



問2 話し合いの目的を明確にして行うことができましたか



問1の結果から授業の課題を設定できている生徒が増えてきていると読み取れます。はじめは、導入での事象の提示がうまくできずに課題設定がうまくいかないことがありましたが、生徒中心で課題設定の時間を設けることで生徒たちが互いの疑問を出し合うようになりました。そして、その疑問から課題意識が高まっていると感じています。

問2の結果から、話し合いの目的を意識する生徒が増加していると分かります。話し合いの視点と聴くポイント・話すポイントを示すことで話し合いが広まり「同じです」や「私は〇〇と思う」と内容に広がりが出てきていると実感しています。

今回の研修を終えて、生徒の課題意識の高まり、タテの対話からヨコの対話の広がりを感じています。少しの工夫を短時間ただけで生徒たちの変化を感じることができ今後の実践で更に対話を基にした生徒主体の授業へとつなげていきたいと思っています。今回の大館市での研修は私にとって生徒主体の授業について気付きの多い研修となりました。

とやま型学力向上プログラム研修会

講師： 桑 由利子先生

8月21日(水)新川文化ホール会議室にて、元横浜市立小学校長 桑 由利子先生をお招きして、「問題解決的な学習を取り入れた道徳科の授業の展開」の演題で、ご講演いただきました。市内小中学校教員52名の参加がありました。

「児童自身の道徳的問題に気づかせるには」「道徳的価値に照らし自己を見つめ直すには」など授業展開のポイントを示しながら、分かりやすくお話いただきました。

(アンケートより)

- ・教育活動全体の中に、道徳的な価値があるので常に子供の実態をみながら授業を構想していく必要があると感じました。
- ・振り返りの時間は、懺悔や決意表明の時間ではない。
- ・導入で子供達の問題意識をなかなか引き出せない、振り返りは教師の思い通りの意見を書かせたくなるという例が自分の指導と重なり、関心をもって聞くことができました。今までの自分を振り返ったり、自分とは違う価値観に対して感想をもったり、少しでも子供たちの心に残る道徳をしたいと思います。



特別支援教育研究会 研修会



特別支援教育研究会では、10月8日(火)に第3回研修会を行いました。今回は、にいかわ総合支援学校 特別支援教育コーディネーターの瀬川貴子先生をお招きして、「就学指導に向けての留意点」と題し、ご講演いただきました。

就学に関する教育相談を受ける際に大切なこととして、「保護者が抱える悩みや不安、葛藤を受け止め、共感し受容していくこと」、「保護者の伴走者として子供の将来について話し合うこと」、「子供や保護者の願いから教育的なニーズ

を整理し、今後の目標や課題を明確にすること、それが就学後の支援につながっていくこと」等、事例を交えながら具体的にお話いただきました。また、就学に関する多数の資料も紹介いただき、様々な情報を活用し見通しをもって相談に応じていくことや外部機関との連携を密にしていくことの重要性も教えていただきました。学校間の接続が円滑に進み、支援が必要な児童生徒が早めに適切な支援を受けられる体制づくりに向けて、学びの多い時間となりました。

第61回 魚津市小・中学校科学展覧会

魚津市小・中学校科学展覧会が、9月21日(土)・22日(日・祝)の2日間、新川文化ホールで開催されました。「くふう創作の部」、「研究調査の部」、「標本・模型の部」の3部門に、市内各小学校から選出された47作品の出品がありました。「魚津市教育委員会賞」に15作品が選ばれ、そのうち3作品が県科学展に出品されました。「06'青少年のための科学の祭典 魚津大会」との同時開催ということもあり、市内外から887名の来場がありました。今年度は特に、「くふう創作」の作品が多く、全体の作品数は増加しました。一方で「研究調査」の作品数はR2年度より減少し続けており、科学的な調査・研究への興味・関心をどのように高めていくかが今後の課題であると感じました。

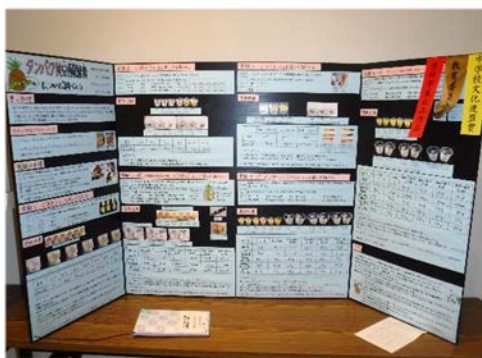
来場者からは「身近な生活から上手にヒントやきっかけを得ていると感心した」「子供ならではの考え方が見られて楽しかった」などの声が寄せられました。科学に親しむよい2日間となったと思います。

科学展入賞者のみなさん

◇富山県科学展覧会「研究努力賞」・日本学生科学賞「中学校優秀賞」・魚津市教育委員会賞

「パイナップルのタンパク質分解酵素について調べよう」

西部中学校 2年 なかむら ひなた 中村 日葵
よつば小学校 6年 なかむら こはる 中村 向春

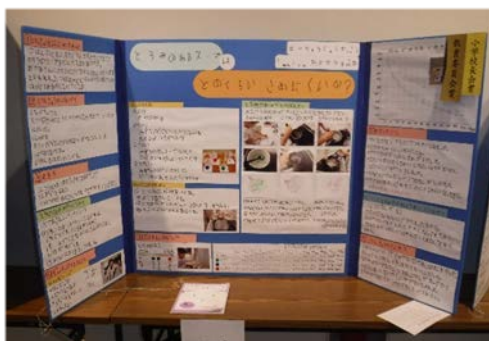


パイナップルに含まれるタンパク質分解酵素が働かなくなる条件について、温度、濃度、部位、pH、糖度の関係から実験を行い、各実験の結果から相関関係を見いだしました。また、部位の実験から糖度の変化とパイナップルを食べる動物との関係にもつなげて考えることができました。

◇富山県科学展覧会「研究努力賞」・魚津市教育委員会賞

「ぴかぴかだいさくせん」

清流小学校 1年 さわやま あつし 澤山 敦之



汚れた体操服を簡単にきれいにできるものを探したいという思いから研究が始まっており、学びを生活に生かそうとする気持ちが伝わってきます。洗った布の変化を写真で記録したことで、ペンの汚れが落ちにくいと気づき、実験2につなげている点がよかったです。

◇富山県科学展覧会「研究努力賞」・魚津市教育委員会賞

「翔べ!!りさのブルーインパルス」

よつば小学校 4年 みやざき りさ 宮崎 璃紗



いろんな種類のグライダーを作って飛ばす実験を繰り返す中で、なぜうまく飛ばないかを予想したり、専門家に質問したりしながら研究を進めました。自分なりの予想をもって実験を重ね、主翼の取り付け角度の重要性や昔の機体の良さに気付いた点がよかったです。

◇富山県発明とくふう展「魚津市長賞」受賞・魚津市教育委員会賞

「防災まくらカバー」

道下小学校 5年 上田 樹生



1月1日の能登半島地震をきっかけに防災意識が高まり、就寝中でもすぐに避難できるものはないかと考え、創り出した作品です。普段は枕として、避難する際にはリュックとして多様な使い方ができる点がよかったです。

◇魚津市教育委員会賞

くさかべ みさき 日下部 心咲	星の杜小学校2年	くらやみピッカくん
ました りるり 真下 瑠璃	清流小学校3年	らくらくキャップあけ
ふじわら わか 藤原 和花	星の杜小学校4年	カサまとめるくん
つじむら よしき 辻村 佳暉	清流小学校4年	アイデアいっぱい工夫ゴミ箱
さわだ そら 澤田 空良	清流小学校5年	回転本だな
おおかわ りこ 大川 莉瑚	道下小学校6年	簡単ナイロン袋あけ
ひだか ひろふみ 日高 啓史	清流小学校1年	とろみのあるスープはどのくらいさめにくいの？
いなば りゅうた 稲場 琉太	清流小学校5年	釣らずに魚を採る！岸壁採集～この夏捕まえた魚たち～
のぶやま ゆうと 延山 悠人	道下小学校6年	バク転、がんばるぞ！2
いけだ かも 池田 萌華	東部中学校2年	洗浄条件による汚れの落ち方
みなと りこ 湊 莉子	清流小学校1年	かいがらあつめ
かわしま あや 川島 彩	清流小学校4年	化石発掘！ーめざせ、恐竜大発見！ー

※魚津市教育センターのHPに入選作品集を掲載しています。

～Column～

12月初旬、総合教育センターで合同所員研究会がありました。今回の研修では、各自持参したPCを用いて、センターのWi-Fiに接続、受付はフォームスで行い、資料はクラウドからダウンロード。受付業務の削減とペーパーレス化が図られていました。令和8年度からは教職員研修実施要項（いわゆる白表紙）がなくなることも告げられており、ICTによる業務の効率化が着々と進められています。

ICT活用は、教員研修にも見られます。市内でもタブレットを活用した事後研修を積極的に進めているところもあります。考えを画面上で共有し協議したり（協働）、フリーで動く時間を設定し、話したい相手を選んで協議したりする（自己調整）など、ICTのよさを生かした研修スタイルからは、これまでよりさらに参加者が能動的に学び、考える時間となる可能性を感じます。

2024年デジタルの波を感じながら、来たる2025年へ。様々な変化にも臆することなく、一步一步着実に歩みを進めていければと思います。

